

第49回 2017（平成29）年
社会保険労務士試験

TAC社会保険労務士講座

本試験分析

この資料は、第49回本試験実施後、受験者の皆様から寄せられた復元解答を元に、選択式及び択一式試験の平均点、得点分布等を算出し、分析結果を記載したものです。

本試験問題の「解答・解説」「科目別のコメント」「択一式問題の難易度一覧表」等につきましては本試験終了後に実施した解答解説会時配布資料又はTAC社会保険労務士講座の情報誌『合格への招待』2017年臨時増刊号に掲載しております。

なお、この資料の分析結果は、あくまでも復元解答を元に作成した現時点でのTACの見解であり、第49回本試験の結果を保証するものではありません。

途中の分析過程を省き、総合ラインのみ確認したい方は、P.7へ

※2017（平成29）年「社会保険労務士データリサーチ」を利用された皆様へ
画面上に表示されている点数・利用者数等と、当資料で用いている点数・利用者数等
は異なっています。これは、「A, A, A, A…」「1, 1, 1, 1…」といった本試験において実際
に解答されているものとは異なると予想されるものや免除科目のある方等をデータ
上から除き再集計しているためです。あらかじめご了承下さい。

第49回社会保険労務士試験 分析資料

選択式試験

●TACデータリサーチより

年	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2017(H29)	4.3	4.4	3.7	2.9	3.5	2.7	3.9	3.7	29.0	?	?
2016(H28)	4.2	4.3	2.8	2.1	3.5	3.3	3.2	3.9	27.3	23	4.4
2015(H27)	3.9	2.6	3.8	1.9	3.2	2.8	3.1	3.2	24.5	21	2.6
2014(H26)	4.1	4.2	4.3	3.0	4.0	3.6	4.1	4.8	32.2	26	9.3
2013(H25)	3.9	1.9	3.6	3.3	1.9	2.1	3.8	4.4	24.9	21	5.4
2012(H24)	4.0	4.8	3.8	4.1	2.7	3.6	2.9	4.3	30.2	26	7.0
2011(H23)	3.4	2.4	4.3	2.8	2.6	4.2	3.7	3.5	26.9	23	7.2
2010(H22)	3.7	4.0	4.5	3.6	3.0	3.5	2.8	2.3	27.3	23	8.6
2009(H21)	2.7	3.4	4.5	2.9	4.0	4.7	4.1	4.4	30.7	25	7.6
2008(H20)	3.6	3.6	4.3	3.3	4.3	2.2	3.2	3.1	27.7	25	7.5

※白抜き数字は2点（2008年の健保、2010年の国年、2013年の社一は1点）が認められた科目

■□■今年の選択式試験の特徴及び従来との比較■□■

- ◇選択式の平均点は29.0点となり、昨年のデータリサーチ平均点を1.7点上回り、合格基準点が26点とされた2012年に次ぐ水準となっている。
- ◇[社一] [健保] [国年]の3科目以外は昨年の平均点を上回っており、全体的にみて、昨年よりは得点しやすかったと思われる。
- ◇最も点数が伸びていなかった科目は [健保] で、平均点は2.7点となっている。

●点数の分布割合等

(単位：%)

割合	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年
5点	42.3	56.6	28.4	4.1	17.0	2.6	35.1	20.7
4点	44.7	29.3	33.1	24.8	33.6	16.9	38.4	48.0
3点	11.3	9.7	23.8	38.0	32.6	34.3	15.7	19.2
2点	1.6	2.9	9.5	23.9	12.1	36.9	6.0	8.3
1点	0.0	0.8	4.2	7.6	4.2	8.5	3.3	3.2
0点	0.0	0.8	1.1	1.6	0.6	0.8	1.4	0.7

2点以下割合	1.7	4.4	14.7	33.1	16.9	46.2	10.7	12.1

択一式試験

●TACデータリサーチより

年	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2017(H29)	6.3	6.0	6.4	5.6	6.8	6.1	7.1	44.3	?	?
2016(H28)	5.7	6.0	6.2	5.4	5.6	5.8	4.8	39.4	42	4.4
2015(H27)	6.4	6.1	5.6	5.4	5.2	6.5	6.1	41.4	45	2.6
2014(H26)	6.6	6.5	6.2	4.9	7.0	6.9	6.2	44.3	45	9.3
2013(H25)	7.1	6.6	6.4	6.3	5.9	6.3	5.8	44.4	46	5.4
2012(H24)	6.6	7.1	5.5	5.6	7.8	6.9	6.1	45.5	46	7.0
2011(H23)	6.9	7.4	6.4	5.5	7.2	5.9	5.6	44.8	46	7.2
2010(H22)	7.6	7.0	7.6	5.3	6.6	6.1	6.6	46.7	48	8.6
2009(H21)	6.8	6.1	6.2	5.8	6.3	6.6	7.1	44.9	44	7.6
2008(H20)	7.0	6.6	7.1	7.3	5.3	5.8	7.3	46.4	48	7.5

※白抜き数字は、3点可とされた科目

※2009年 国年問8は正答なし。全員加点。

※2010年 社一問7、健保問2、国年問10は正答なし。全員加点。厚年問10-AB、国年問7-CEは複数正答。

※2011年 災徴問8-CEは複数正答。

※2015年 雇用問6は正答なし。全員加点。

■□■今年の択一式試験の特徴及び従来との比較■□■

◇平均点は44.3点と過去10年間で最低水準となった昨年を4.9点上回っている。

◇昨年7問と多く出題された個数問題も、一昨年並みの3問の出題にとどまった。

また、昨年事例問題が多く出題された[国年]は、今年は事例問題がなく比較的平易な出題となっており、平均点も昨年の4.8点から7.1点へと大きく伸びている。その反面、安衛法で事例問題が出題される等、新しい傾向も見られた。

◇最も平均点の高い科目は、[国年]の7.1点、最も低いものは[常識]の5.6点となっている。

●点数の分布割合等

(単位: %)

割合	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年
10点	1.1	1.0	0.6	0.3	3.8	3.6	7.1
9点	5.2	4.5	7.0	1.6	14.2	11.2	18.9
8点	17.1	11.7	17.6	8.6	21.3	14.5	22.5
7点	25.8	20.5	26.1	18.9	22.0	18.0	18.7
6点	22.1	24.7	22.3	26.3	16.7	16.2	12.4
5点	15.6	19.1	14.0	22.9	9.9	13.0	8.3
4点	7.7	11.4	7.2	12.2	6.5	9.7	5.0
3点	3.6	4.9	3.9	6.2	3.4	6.9	4.0
2点	1.1	1.6	1.1	2.4	1.5	4.1	2.2
1点	0.4	0.4	0.2	0.5	0.4	2.3	0.8
0点	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1	0.5	0.1

3点以下割合	5.3	7.1	5.2	9.2	5.5	13.8	7.1
---------------	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----

【総合得点の検証】

●選択式の総合得点

昨年厚生労働省より公表された、「社会保険労務士試験の合格基準の考え方について（以下「合格基準の考え方」という。）」をみると、合格基準点は、満点の7割である「28点」を基本とし、全体の平均点を考慮した上で、前年の合格基準点を調整することとされている。

詳細は後述するが、データリサーチの集計結果の平均点と過去の本試験の実際の平均点を比較すると、年によってある程度の誤差はあるものの、本試験の結果に対してデータリサーチの集計結果は約7点程度高く出る傾向がある。これは、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っている傾向にあるためと考えられる。しかし、実際の本試験の平均点が大きく上下した場合には、データリサーチの平均点も同様の傾向を示しており、両者の動きにはある程度の共通性があると推測することができる。今年も同様であれば、昨年よりも合格基準点が引き上げられる可能性が高い。

●択一式の総合得点

前述の「合格基準の考え方」をみると、合格基準点は、満点の7割である「49点」を基本とし、全体の平均点を考慮した上で、前年の合格基準点を調整することとされている。

択一式の平均総合得点（44.3点）は、42点が合格基準点であった昨年のデータリサーチ結果と比較すると、+4.9点となっている。

こちらも詳細は後述するが、データリサーチの集計結果の平均点と過去の本試験の実際の平均点を比較すると、本試験の結果に対してデータリサーチの集計結果は約12点程度高く出る傾向がある。選択式同様、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っているためと考えられるが、やはり、実際の本試験の平均点が上下した場合には、データリサーチの平均点も同様の動きをする傾向があり、両者の動きには、選択式同様ある程度の共通点が見られる。前述の通り、データリサーチの択一式総得点の平均点は44.3点と昨年のそれより上がっていることから、昨年の合格基準点よりも高くなる可能性が高い。

【合格基準補正（いわゆる救済）の可能性について】

●選択式の合格基準補正の可能性

「合格基準の考え方」で「科目最低点の補正」の考え方をみてみると、補正（いわゆる救済）については、以下のように記されている。

各科目の合格基準点（選択式3点、択一式4点）以上の受験者の占める割合が5割に満たない場合は、合格基準点を引き下げ補正する。

ただし、次の場合は、試験の水準維持を考慮し、原則として引き下げを行わないこととする。

- i) 引き下げ補正した合格基準点以上の受験者の占める割合が7割以上の場合
- ii) 引き下げ補正した合格基準点が、選択式で0点、択一式で2点以下となる場合

今年の選択式試験のデータリサーチでは、全科目のうちで平均点が3点未満の科目が[労一]2.9点、[健保]2.7点と2科目ある。両科目の3点以上割合を見てみると、[労一]は66.9%、[健保]は53.8%であり、単純にみると、両科目とも上記の補正が行われる要件を満たしていない。

ただし、前述の通り、データリサーチの利用者が比較的得点の高い受験生に偏っている傾向にあることを考慮すると、本試験における両科目の3点以上割合は受験生全体でみるとデータリサーチの数値よりも下がる可能性がある。[労一][健保]共に今年の本試験の中では、比較的難易度の高い内容であることに変わりはないが、データリサーチの3点以上割合をみると、[労一]の出題内容の方が[健保]よりも社会通念で考えた場合正答肢を推測しやすかったことがうかがえる。これに対して[健保]の出題内容は、特に受験校利用者以外の受験生にはなじみが薄い内容であったことも考慮すると、[健保]の方が、受験生全体でみたときの3点以上割合が下がる可能性が高いと思われる。[労一]についても、補正が行われる可能性がないとは言えないが、[健保]の方が、データからみる限り補正が行われる可能性は高いということができる。

● 択一式の合格基準補正の可能性

今年の択一式試験のデータリサーチの平均点は、昨年に比べ全体的に高くなっています。また、極端に平均点が低い科目もなく、いずれの科目についても、補正が行われる可能性は低いと思われる。しかし、過去のデータリサーチの集計結果と本試験の結果を見ると、昨年の[常識]のように、データリサーチの平均点が決して低いわけではないが、補正が行われた科目も存在している。受験生全体のデータを見てみないとつきりしたことはわからないが、現時点では補正が行われる可能性は低いといえよう。

総合的な合格基準分析

【参考】過去の本試験結果とデータリサーチの結果

	本試験				データリサーチ			
	回数	受験者	合格者(a)	合格率	提出者(b)	合格者(c)	※1(c/b)	※2(c/a)
2008(H20)	40回	47,568	3,574	7.5%	2,587 2,597 3,000 2,671 2,521 1,885 2,199 1,676 1,692 2,092	862	33.3%	24.1%
2009(H21)	41回	52,983	4,019	7.6%		1,043	40.2%	26.0%
2010(H22)	42回	55,445	4,790	8.6%		1,315	43.8%	27.5%
2011(H23)	43回	53,392	3,855	7.2%		925	34.6%	24.0%
2012(H24)	44回	51,960	3,650	7.0%		862	34.2%	23.6%
2013(H25)	45回	49,292	2,666	5.4%		558	29.6%	20.9%
2014(H26)	46回	44,546	4,156	9.3%		1,014	46.1%	24.3%
2015(H27)	47回	40,712	1,051	2.6%		295	17.6%	28.1%
2016(H28)	48回	39,972	1,770	4.4%		457	27.0%	25.8%
2017(H29)	49回	?	?	?		?	?	?

※1 データリサーチ提出者の合格率 (c/b)

※2 本試験合格者のうち、データリサーチ提出者が占める割合 (c/a)

- ここまで述べてきた通り、データリサーチの平均点は、本試験全体の平均点よりも高い数値となる傾向があるが、上がり下がりについては、全体の平均点と同様の動きとなる傾向がみられる。このことから考えると、データリサーチの結果から、本試験全体の平均点を推測し、今年の合格基準点を予想していくことがおそらく最も現実的であろう。
- まず、選択式であるが、データリサーチの平均点は、29.0点であり、前年のデータリサーチ平均点27.3点に対し、+1.7点となっている。本試験全体の昨年の平均点は20.5点、過去のデータリサーチ平均点と本試験平均点の乖離の平均値は7.1点となっており、今年の本試験平均点は、ある程度の誤差があることは否めないが、21.9点と予想できる。対前年で考えると、+1.4点となり、「合格基準の考え方」の「総得点について、前年度の平均点との差を小数第1位まで算出し、それを四捨五入し換算した点数に応じて前年度の合格基準点を上げ下げする（例えば、差が△1.4点なら1点下げ、+1.6点なら2点上げる。）」という考え方にてはめると、今年の合格基準は、誤差も考慮すると25点が有力となる。なお、[労一] [健保]の両科目については、平均点が3点を割り込んでいることから、合格基準点を2点とする補正が行われる可能性があるが、P.5で触れた通り出題内容から考えると、補正是[健保]1科目にとどまる可能性もある。

3. 次に、択一式であるが、今年のデータリサーチの平均点は44.3点で前年の39.4点から4.9点上がっている。昨年の本試験の平均点は28.8点、データリサーチとの乖離の平均は12.2点である。以上の内容から、本試験の平均点は32.1点と予想でき、前年の平均点から+3.3点となる。昨年の本試験の合格基準点は42点なので、3点上がった45点が有力となる。ただし、「合格基準の考え方」には、「前年の平均点との差により合格基準点の上下を行うが、前年に科目ごとの補正があった場合は、補正が行われなかった直近の年度の平均点も考慮する。」との記載があり、また「総合得点の補正により、合格基準点を上下させた際、四捨五入によって切り捨て又は繰り入れされた小数点第1位以下の端数については、平成13年度以降、累計し、±1点以上となった場合は、合格基準点に反映させる。」との記載もある。仮に今年は補正が行われないとすると、直近で補正が行われなかった平成27年（本試験平均点31.3点）との比較となり、この年の本試験の合格基準点である45点を上回ることが予想される。これに端数の累計を考慮すると、平成27年の合格基準点45点に+1点を見込んだ46点が最有力ということになる。なお、択一式の補正であるが、本試験平均点とデータリサーチの数値の乖離により、全く可能性がないとは言えないが、P.6で触れた通り、補正が行われる可能性は低いと思われる。
4. 今年の本試験の特徴としては、選択式・択一式ともに難易度が落ち着き、昨年よりも得点しやすかったことがあげられる。選択式の補正については、P.5で触れた通りだが、全体の得点分布によっては補正が見送られることもあり、完全な予測をすることは困難である。また、択一式の合格基準も本試験での実際の得点分布や平均点を完全に把握することは困難であり、絶対と言うことはできないが、データリサーチの結果から考えた場合、現状では前記**2** **3**で述べた合格ラインが有力であると考える。